

平成 2 7 年

亀山市教育委員会 1 1 月定例会会議録

亀山市教育委員会 11月定例会会議録

1. 日 時

平成27年11月26日（木）13時30分開会

2. 場 所

亀山市役所職員会館2階 会議室

3. 出席委員

1番委員	太 田 淳 子
2番委員	肥 田 岩 男
3番委員	井 上 恭 司
4番委員	伊 藤 ふじ子
5番委員	大 萱 宗 靖

4. 欠席委員

なし

5. 議事参与者

教育次長	佐久間 利 夫
教育総務室長（以下総務室長という。）	原 田 和 伸
学校教育室長（以下学校室長という。）	中 原 博
教育研究室長（以下研究室長という。）	伊 達 弘
生涯学習室長（以下生涯室長という。）	亀 山 隆
図書館長	久 野 友 彦
歴史博物館長（以下歴博館長という。）	小 林 秀 樹
まちなみ文化財室長（以下まち室長という。）	嶋 村 明 彦
教育総務室主幹（書記）	木 崎 保 光

6. 会議録署名者指名

3番委員（井上恭司委員）

7. 教育長報告

教育長 教育長報告の主なものを「平成27年11月定例会教育長報告」に基づき報告。

10月24日教育研究三重県集会が開催された。三重県内各地からたくさんの教育関係者が参加された。会場は、亀山東小学校で、分科会は亀山西小学校で行われた。亀山市での開催は10数年ぶりであったが有意義な会議であったと聞いている。同日、午後には亀山演武場開場150年記念の式典が行われた。

25日亀山ライオンズクラブ創立50周年記念式典に出席した。同日、みえ高文祭の案内をいただいていたので、高校生がどのような文化的活動をしているのかを見せていただく機会となった。

27日は、神辺保育園の家庭教育出前講座に出席、教育委員会としていろいろお世話になっている鈴鹿大学の仲先生の講座が開催された。保護者の方は熱心に聞いておられ、出前講座の必要性を感じた。

30日は、加太小学校の農産物生産体験で芋掘りと自然薯掘りに参加した。

11月4日と6日の2日にわたり、県教委の学校訪問が行われた。主に新規採用者の授業の視察と特別支援学級がどのように経営されているかについての視察が行われた。その後、学校長と県教委とで懇談が行われた。

12日、13日に市議会臨時会が開会され、新しい議長、副議長、各委員が決まった。

14日は、青少年のための科学の祭典が行われた。たくさんの参加者があり、継続していくべき事業と感じた。

17日は、青少年海外協力隊50周年記念式典の案内があった。以前、野登小に勤務していた中林先生がエクアドル、それと現在、川崎小学校勤務の都倉先生がパラグアイに行っていたので案内が来たと思われる。横浜のパシフィコの5,000人ほど収容できるホールで盛大に開催された。

20日は、亀山っ子給食試食会が行われた。亀の市、鈴鹿農協にお米や採れた野菜をいただいております、その感謝状の贈呈が行われた。

22日の日曜日は、今年度の防災訓練が亀山東小学校で行われた。同日、川崎ふれあいフェスタが行われ、小学校新校舎の模型などの展示があった。子どもたちは自主参加であったが、ほとんどの児童が音楽などの発表で参加していた。午後には、加太秋まつりが行われ、子どもたちの発表やつむぎコーラスなど多彩な発表があった。その後、第31回子どもと先生の作品展を見に行った。子どもの作品展示があったので、多くの保護者が来ていた。

(質問はなく、教育長報告を終わる。)

8. 協議事項

委員長 協議事項1「平成28年度教育費予算について」、事務局の説明を求める。

(各室長説明)

井上委員 各室に削減の目標が示されたということだが、ここに記載されている減額の数字と財務の示す削減目標の数字とは、ほぼ一致するのか。

総務室長 今回示されているのは、光熱費とか消耗品費などの需用費を中心に目標が示されています。それにこだわらず、目標額に達するように努力はしています。

井上委員 教育総務室は、今年度ややこしいようですが、例えば学校教育室はどうですか。

学校室長 一致しません。ここに示されていない新規の部分がたくさんあり、予算は示された額より多くなっています。新規の部分を除けば近い数字になっています。

井上委員 新規が通るかどうかわからない部分があるということか。

図書館長 財務が示しているのは、前年度の決算額を元にシーリングをかけて減らすように示してきているので、それに対応するようにしているが、新規の事業もあるため、何で痛みを分かち合うかというところです。

井上委員 新規の事業は必要だからあげているので認められるべきものかなと思う。教育研究室はどうなのか。

- 研究室長 教育研究室は、ほぼ90万円の削減目標でそれに近い数字となっていますが、新年度は中学校の教科書改訂があり、これは別で認めていただけるものと思っています。
- 井上委員 いろいろな事情が発生してくるかと思うが、財務が示した数字に近づけるのに苦勞をしていると感じる。頑張っていたきたい。
- 委員長 決算額にパーセンテージを掛けているということだが、26年度の決算額ということか。
- 教育次長 削減目標としては、一定の率によるものや、その他過去の決算額を考慮して目標額を設定したとして財務が出してきています。教育委員会としては、昨年大きな事業がありましたので、全体としては下がっていますが、財務が目標としている額には、達成していない状況です。
- 委員長 電気代など値上がりしているのに他で減らさなければ無理ではないか。
- 井上委員 今度、査定が行われると思うが、それぞれが納得できる根拠を財務が示してくれるといいが係数を掛けて削減しているようでは、納得いかないだろう。
- 教育次長 この12月議会で光熱費は補正をあげている状況で、当初予算で削減しても結局年度末には補正しなければいけない状況です。
- 委員長 県では、消耗品費や旅費で削減するようによく言われた。光熱費での削減というのは厳しいと思う。
- 井上委員 図書館で購入費の減額というのは、由々しきことだと思う。200万の削減というと今年度の図書購入費の何パーセントになるのか。
- 図書館長 毎年、経常的に800万円の予算ですので、25パーセントの減ということになります。
- 井上委員 私が財務ならば、むしろ200万円増やしてやると言いたいところだ。800万円のうちの200万円というのはきついと思う。それとまちなみ文化財室などに国の補助率2分の1というのがあがるが、1億円の事業ならば国は5000万円補助するのか。
- まち室長 そういうことです。補助対象経費が1億円であれば、その半分ということです。ただ、他市との関係で補助額の削減ということがあるので、その場合は、事業を圧縮して事業費を削減して補助率の2分の1に近づけるようにします。

井上委員 そうですとこれは、他の市町と取り合いというか。

まち室長 通常の事業ではそうなるが、まちづくりに関わるものは、全国で32ほどの市町しかないので、競争相手は少ないです。そういうハードルの高い事業を取っていくということです。

太田委員 事業の内容の確認ですが、青少年総合支援センター事業で青少年の非行防止、自立支援の事業ということでパトロールがあるのですが、その内容はどういうことでこの額になっているのか知りたい。

生涯室長 総合支援センター事業は5番と6番の二本立てです。地域の方々で行っていただいている補導委員に対する謝金とパトロールを担っている職員の人件費、それと施設を借りているのでその使用料です。それと青少年自立支援事業が支援員で、カウンセリングを中心とした相談業務です。こちらは、ほとんどが人件費です。

太田委員 具体的に人件費とか家賃のパーセンテージとか出ますか。

生涯室長 まず、青少年自立支援事業ですが、事業費409万8千円のうち人件費391万2千円ですので、9割以上です。それと総合支援センター事業ですが、事業費1397万5千円のうち人件費1126万1千円ですので、ほとんどが人件費です。

太田委員 補導員は何人ですか。

生涯室長 8名です。

太田委員 他が家賃ということですか。

生涯室長 他は、補導委員の謝金も入っています。

太田委員 謝金はどれくらいの割合ですか。

生涯室長 50名の方に依頼していますので、年額で90万円です。

太田委員 これは削減できますよね。謝礼金ですから。

生涯室長 これも定額で支払をしているので、人件費と謝礼金がほとんどを占めているということです。

(ほかに意見はなく、協議を終わる。)

9. 報告事項

委員長 報告事項1「平成28年度亀山市立幼稚園入園児の応募状況について」説明を求める。

(教育総務室長説明)

大萱委員 幼稚園の応募はもう締め切ったのか。
総務室長 11月13日で締め切っています。
大萱委員 そうすると4歳児の応募は少なかったということか。
総務室長 若干少ないと思いますが、3歳児からの入園が増えている傾向にあると思います。

大萱委員 5歳児の人数と比べるとかなり少ない。定員が3歳児は25名、4歳児、5歳児は35名となっているが、3歳児の25名は手が掛かるから25名となっているということだが適正な数字なのか。
総務室長 基準は35名以下となっていますが、3歳児は、保育に負担が掛かるということで少なくし、なおかつ、補助員を配置していますし、支援の必要な幼児には、介助員を配置しています。

大萱委員 30名に増やすということは、保育の負担が増えるので難しいということですね。25名が妥当な数ということですね。
総務室長 定員は25名ということで決めさせていただいています。
井上委員 関幼稚園が認定こども園になるので、福祉の所管になるということですが、教育委員会の場で協議とか報告というのは出てくるのか。それと認定こども園に移行していく中でいくつか課題があると聞いているが、PTAの関係で、市P連が19あるが関幼稚園が抜けて18になるのか。そうすると今まで行ってきた教育懇談会とか教育を語る会とか、そこから外れていくことになるのか。子育ての交流の場から外れるのか。それと保幼小の接続カリキュラムとか、保幼の共通カリキュラムは、教育研究室が中心になって作成し進めてきているが、福祉の管轄の認定こども園アスレは、外されていくのか。

太田委員 PTAの件ですが、外れるということは聞いている。関幼稚園のほうから、外れたいという意見を聞いている。協議委員会のとときに議決を採って決める。総会のとときに報告があると思う。

生涯室長 関幼稚園のPTAの件については、関幼稚園のPTAと関保育園の保護者が並立している状況で、両者で何回か話し合いが行われ、この11月10日の役員会のなかで、アスレの会という保護者会をつくっていくことになったと聞いています。保育園の保護者の方は、仕事の関係で研修会などの参加が難しいので保護者会の形式をとっていくということです。この16日に市P連は抜けさせてほしいという話でした。将来的には復帰できるようにし

て行きたいという話でした。一体型の認定こども園は県下で2番目で試行錯誤の段階のため、慎重に対応していきたいということでした。そういったことを踏まえて、PTA活動もどうして行くのか見極めたいということでした。一旦は抜けさせてほしい。前向きに取り組んでいく中での判断という様に感じています。

総務室長

認定こども園は、福祉の管轄になりますが、9月の定例会でもお示ししましたように教育委員会が認定こども園に対し意見を述べることができ、逆に福祉のほうから教育委員会の意見を求めることがありますので、そのように対応していきます。

研究室長

接続カリキュラムに関しては、どちらかが主というのではないが、小学校への入学をスムーズにするのが目的で、幼稚園・保育園ともにアプローチカリキュラムを実践していただいています。今後、認定こども園に移行した場合でもそのカリキュラムは引き継いで実践いただくと、保幼共通カリキュラムについても、小学校へ移行するために共通してする学びを策定中で、今後成果とか進捗とかを協議する保幼小中連携協議会がありますが、その中に認定こども園の文言がないため、どうするのかを検討中です。

教育長

認定こども園になっても、当然、就学前教育ということで関わりは持っています。子ども総合センターとも連絡を密にとっていかなければいけないと感じています。

委員長

いろいろ読んでいると保育所等となっている。等に含まれているということですね。

(ほかに質問はなく、報告を終わる。)

委員長

報告事項2「第8回亀山市学校給食検討委員会議事録について」説明を求める。

(学校室長説明)

井上委員

3点ほど質問をする。まず1つ目に、意見書3に出てくる中長期的視点の中長期とは具体的なスケジュールを念頭においているのか。具体的な数字はでないかも知れないがいつ頃と考えているのか。再度検討委員会を設置するのかということもあるだろうし、今度は教育委員会の判断でということもあると思うがそのあたりについてどうなのか。2つ目にデリバリー給食の件だが、順調に行われているようだが、安定性はどうか。他の市町でも給食

センターを民間委託しているところがあるが、もし業者が倒産したら給食を提供できないようになるし、火災が発生することもあり得ると思うがその委託先の安定性はどうか。どのように考えているか。3つ目に完全給食を希望する保護者の割合が60%を超えている、つまり保護者の3分の2が要望していることを市の政策としてどのように捉えているのか。3分の2の人が要望していることをやらないということについて、市当局あるいは教育委員会はどのように受け止めているのか。

学校室長

「中長期的な」という文言は、先が見えにくい、分りにくいという意見があり、新たに提示するものからは削除されることとなりました。次にデリバリー給食の安定性については、1社しかありませんのでリスクはあります。現在の業者は、桑名市と四日市市にも供給しています。他社があればいいですが、同じような条件の業者は、今はありません。もし、何かある場合は保護者の方に弁当等をお願いするしかないと考えています。3つ目の完全給食を保護者の6割が要望しているのは、重く受け止めなければならないと考えています。同時に子どもの意向調査では、6割以上の子どもはお弁当がいいという子どものニーズもあります。

(ほかに質問はなく、報告を終わる。)

委員長

報告事項3「教育課題について」説明を求める。

(教育研究室長説明)

大萱委員

いじめを積極的に認知してその解決に当たったので認知件数が増えたということですが、その認知方法は、何が功を奏して、いじめの早期発見に努めることができたのか。

研究室長

9月に実施したアンケート調査において把握した件数が多くなっています。それを精査する段階において、初期段階の事例があげてあり、それで判断したことにより件数が増えています。

大萱委員

今までならいじめと判断していないような事例もあげてあるということか。

研究室長

数に入っています。

大萱委員

児童間暴力と対人暴力というのがあるが、対人暴力というのは、児童間、生徒間以外の方ということでいいのか。他校の生徒と起こした暴力は、児童間暴力になるのか。

- 研究室長 他校との生徒との暴力は児童間暴力になります。
- 大萱委員 そのような問題はあるのか。
- 研究室長 今年是他校との暴力の事例はありません。
- 委員長 不登校の数について、4月から9月の間に発生という説明であったが、4月以降の数ということか。
- 研究室長 不登校とは、4月1日から30日を超える欠席があるものうち、主たる理由が不登校というものがあがっています。
- 委員長 「その他」は何があるのか。
- 研究室長 例えば、公共施設への不法侵入や学校のコンセント破損とかいうのがあります。
- 太田委員 いじめの件数について、学校内で実際におこっているのと学校外の割合はどうか。
- 研究室長 主に学校内となります。
(ほかに質問はなく、報告を終わる。)
- 委員長 報告事項4「図書館利用状況について」説明を求める。
(図書館長説明)
(質問はなく、報告を終わる。)
- 委員長 報告事項5「教育委員会行事報告及び予定表」について説明を求める。
(総務室長、学校室長、研究室長、生涯室長、図書館長、まち
(質問はなく、報告を終わる。))

10. その他

- 委員長 「学力向上の進捗状況について」説明を求める。
(教育研究室長説明)
- 井上委員 学校質問紙で校長のつけ方があまいと思う。校長の校内の授業の見回りも100%となっている。確かに見回りはしていると思うが、授業に入り込んで、その後担任にアドバイスをすること少くないと思う。
- 教育長 校長が授業を覗いているだけで、子どもの様子が変わることあります。
- 委員長 中学校は100%が多い。

- 研究室長 3校なので、0%、33%、66%、100%しかありません。
- 井上委員 校長の姿勢だと思う。それによって子どもの様子が変わる。学校教育室が管理職研修を年間3回行っているが、その手ごたえは感じるか。
- 学校室長 研修の中身によっては、すぐに学校で実践される管理職の方もみえました。管理職がどういう姿勢で研修に臨むかというのは重要であると思います。
- 井上委員 やっぱり学校は校長なんだという意識を校長が持っているかどうかで変わってくる。やっぱり校長のリーダーシップと思う。
- 教育長 授業改善については、もう少し突っ込んでやっていただく必要があると思いますし、教育委員会事務局からも指導させていただく場合もあります。
- (他に質問はなく、説明を終わる。)
- 委員長 「成人式について」説明を求める。
- (生涯学習室長説明)
- 委員長 成人式は、1月10日14時からということです。
- (質問はなく、説明を終わる。)
- 委員長 12月の定例教育委員会の開催日は25日(金)14時からとする。

11. 閉会

16時15分

以上会議の顛末を記録し、下記のとおり署名する。

委員長

3番委員

教育長